

# 平成 30 年度京都市立京都堀川音楽高等学校 学校経営方針

## 1 教育目標

**人間尊重の精神を基盤に、心豊かな人間を育てるとともに、将来幅広く音楽専門家として、自立して活躍し、文化の発展に貢献できる人材を育成する。**

教育目標の達成のために、次の 3 つの力をバランスよく育成する。

音楽力 音楽の世界で飛躍するために必要な感性と実技力、ソルフェージュの力、音楽史や音楽理論などの専門的な知識

学力 進路実現に向けた確かな学力、社会で生きていくための基礎知識と、自ら考え行動できる力

人間力 自立した人間として、音楽を通して何ができるかを考えることができる力、人の痛みがわかり、地球の裏側まで慮ることができる思いやりの心

## 2 学校経営の基本方針

校名を改め、現在の地に移転して 9 年目を迎える。教職員関係者の努力と、多方面からの多大な尽力と熱意によって実現した高水準の環境の中で、生徒たちを育み、その期待に応えるべく最大限の力を注いできた結果、昨年度の進路結果（卒業生 39 名）は、東京藝術大 10、京都市立芸大 10 を含む国公立大学合格 23 を達成し、過去最高を記録した一昨年度と同数を維持した（東藝・京芸合計 20 は過去最高）。これまでの優れた取組を継承していくとともに、「音楽高校ルネッサンス計画」を踏まえて構想を重ねてきた「グランドヴィジョン」を今一度見直し、さらなる教育活動の充実発展を目指す。

生徒一人一人が覚悟をもって「本物」の芸術家・音楽専門家をめざし、音楽における資質と能力を伸ばしながら、深い学びを主体的に求め続ける自立した「音高生」の育成、音楽分野における将来のグローバルリーダーの育成に取り組んでいきたい。

### （1）本物の音楽・芸術文化に触れさせ、「音楽力」の高度化・深化を図る。

- ①ヨーロッパ研修旅行（第 2 学年）を充実させる。
- ②芸術顧問や大学教授等による特別公開レッスン・専攻別特設講座を充実させる。
- ③世界的な若手音楽家による講演や演奏を聴かせる機会を提供する。
- ④音楽文化発信拠点“音楽の街”づくりを継続発展させる。（卒業生支援も兼ねて）
- ⑤生徒と卒業生による 4 つのコンサートの開催を継続・充実させる。
- ⑥創立 70 周年記念の取組として、オーケストラ定期演奏会の内容の充実を図る。
- ⑦高大連携を強化する（京都市立芸術大学の移転に絡んで）。

## **(2) 豊かな感性や幅広い表現力の土台となる確かな「学力」を養う。**

- ①すべての教科・科目を主体的に学び、広い視野と深い教養を支える基礎基本を身につけさせる。
- ②普通教科と専門教科の学習のバランスをとりながら計画的、自立的に学習を進めるセルフマネジメント力を養う。
- ③生徒の第一進路志望の殆どを占める国公立大学、その入試課題の分析・研究を重ね、進学保障を行う。
- ④「大学入学共通テスト」の実施に向けての情報収集・分析と入試対策の準備を進める。

## **(3) グローバルに活躍する芸術家・音楽専門家になるための、「人間力」を高める。**

### ①音楽専門家としてのキャリア教育

- ア) 様々な音楽活動や芸術鑑賞を通じて、“感動力”を養う。
- イ) 演奏活動やボランティア活動への参加を奨励する。
- ウ) 生きた英語を身につけて、世界に羽ばたくグローバルリーダーとしての活動の礎とする。
- エ) 他者から見た自分を意識させ、自己開発、自己研鑽を目指す生徒へと導く。

### ②コミュニケーション能力の伸長

- ア) 文化や世代を超えて周囲の人々と友好的関係を築きながら対話できる力を育む。
- イ) 学習活動や特別活動を通じて、集団における協調性や皆で創り上げる喜びと達成感、他者を認め思いやる心を育む。
- ウ) 地域との連携を深め、広い世代とのコミュニケーション能力を身につけさせる。
- エ) 主体的な言語活動や自国文化の学習を通してアイデンティティの確立と自立を促す。

### ③ICTの正しい活用に関する指導、および情報モラル教育

- ア) 日々進歩するICT機器を正しく使いこなせるよう指導する。
- イ) 様々な情報の中から有益な情報を取り出せる能力を身につけさせる。
- ウ) 著作権の取り扱いについての正しい知識を身につけさせる。
- エ) 「いじめ」等のネット社会での問題に真摯に向き合う姿勢を育てる。